

第2期総合戦略KPI達成率進捗状況確認票

1. また訪れたいまち促進プロジェクト（社会減対策）

【基本目標】

区分	R 2	R 3	R 4	R 5	R 6	5年間数値目標・実績		達成率	内部検証	
	実績	目標値	目標値	目標値	目標値	数値目標	実績見込		R 2年度までの実績について分析（取組・課題）	目標達成に向けた今後の方向性
観光客入込客数（人）	86,425	100,000	150,000	180,000	230,000	750,000人 （延べ）	746,425	100%	コロナ禍により県外からの観光客が減少し、令和元年度の166,399人から大幅な減となった。県内客への効果的なPR、潜在的県内客の発掘が課題である。	町内観光施設等のコロナ対策を徹底し集客を図る。令和3年にはキャンプ需要の膨らみも見えているため施設の維持・整備を実施する。
奥津軽いまべつ駅利用者数（人）	14,313	20,000	30,000	36,000	46,000	150,000人 （延べ）	146,313	98%	コロナ禍により観光客等が減少。さらに県跨ぎでの移動自粛要請により新幹線利用が大幅に減少したことが要因と思われる。JR北海道と連携した駅の利用促進イベントの実施が課題となる。	アフターコロナを見据えて利用促進・観光促進事業を実施。コロナ禍においては小規模な駅イベントや道の駅と連携したイベント等を実施し利用促進を図っていく。

【具体的な施策・事業と重要業績評価指標】

区分	R 2	R 3	R 4	R 5	R 6	5年間数値目標・実績		達成率	内部検証	
	実績	目標値	目標値	目標値	目標値	数値目標	実績見込		R 2年度までの実績について分析（取組・課題）	目標達成に向けた今後の方向性
海峡の家利用促進事業 海峡の家利用者数（人）	704	600	600	600	600	3,000人 （累計）	3,104	103%	高野崎及び銚子等々のキャンプ場利用者の増加に伴う日帰り入浴利用者の増が要因と思われる。今後、アフターコロナに向けて宿泊客の回復が見込まれるが、施設のコロナ対策及び持続可能な管理体制の整備が課題となる。	施設のコロナ対策を講じ、利用者の受入体制を整備していく。
小中学校宿泊交流促進事業 交流学校数（件）	0	0	1	1	1	3件 （累計）	3	100%	以前から交流していた北海道知内町の小学校との交流については、令和2年度はコロナ禍により直接交流を自粛したが、オンラインでの交流は継続している。	感染症対策を踏まえながら交流校との調整を図る。令和4年度以降は直接交流を復活させ、KPI達成を目指す。
文化スポーツ交流促進事業 文化スポーツ交流者数（人）	4,195	4,000	4,000	4,000	4,000	20,000人 （累計）	20,195	101%	いまべつ総合体育館で定期的に活動する団体が増えてきており、町外団体との交流も盛んになってきている。コロナ禍でのスポーツ交流、施設利用が課題となる。	コロナ禍に対応した施設環境を整備し、体育館利用を促進するために情報発信を強化するとともに、スポーツ人口の増加を図る。
おもてなし応援隊事業 応援隊隊員数（人）	11	14	16	18	20	15人→20人			コロナ禍により応援隊活動ができず、新規隊員の勧誘も進んでいない。長引くコロナ禍で隊員活動が下火にならないように隊員の士気の維持が課題となる。	新型コロナウイルス感染症予防対策を講じながら、活動の場を広げていく。また、隊員活動を積極周知することで応援隊の魅力を高め、新規隊員を募っていく。

また訪れたいまち促進プロジェクトの実績等に対する今別町まち・ひと・しごと創生推進会議委員の意見

- ・コロナ禍によりどの事業も苦戦しているようだが、いずれは終息するはず。その時に備え準備をしてほしい。
- ・目標の観光客入込客数の達成率がR 2で11.5%とかなり低い。R 3も同様になるはず。R 4はコロナ次第だが、観光客数増加のためにねぶた祭り（荒馬まつり）をKPIに追加してはどうか。
- ・コロナの終息に期待します。
- ・奥津軽いまべつ駅、道の駅いまべつ、いまべつ総合体育館を、近隣町村と連携して利用してもらうように積極的に働きかけてはどうか。
- ・現状で良い。とにかくコロナが終息しないと先にいけない。
- ・今別町は宿泊施設が少ないため、日帰り等の来客をターゲットにする。となれば、訪れた町の善し悪しが決まるのは食事ではないか。当町には「いまべつ牛」と「津軽半島今別サーモン」と思い出に残る食材があるので、その食材を使った料理を開発（定食・弁当等）しては。
- ・奥津軽いまべつ駅を利用して北海道に行く場合、新青森駅に駐車するのと比べて1万円違うとのこと。具体的な数字でPRが必要では。

第2期総合戦略KPI達成率進捗状況確認票

2. 住みたいまちオンリーワンプロジェクト（社会減対策）

【基本目標】

区分	R2	R3	R4	R5	R6	5年間数値目標・実績		達成率	内部検証	
	実績	目標値	目標値	目標値	目標値	数値目標	実績見込		R2年度までの実績について分析（取組・課題）	目標達成に向けた今後の方向性
空き家再生件数（件）	0	2	2	2	1	5件 （累計）	7	140%	空き家バンクを通しての再利用等は0件だが、民間利用は数件ある。空き家バンクの利用促進と住居以外での空き家の利活用方法の模索が課題となる。	空き家バンク制度の拡充と利活用促進のための補助金制度を創設する。併せて民間活動を支援し、住居以外での空き家の利活用を模索する。
町外からの定住者（人）	5	2	2	2	2	10人 （延べ）	13	130%	令和2年度は1家族(3世帯(1人親世帯(子供2人)、祖母、男性)が転入。移住施策活用検討の相談あり。コロナ禍での全国的な地方回帰の流れを掴めるかが課題となる。	移住及び定住支援施策を拡充、周知することで移住促進を進める。また、県等が主催する移住イベントに積極的に参加し、同時に移住体験ツアー等を実施することで移住者の獲得を図る。

【具体的な施策・事業と重要業績評価指標】

区分	R2	R3	R4	R5	R6	5年間数値目標・実績		達成率	内部検証	
	実績	目標値	目標値	目標値	目標値	数値目標	実績見込		R2年度までの実績について分析（取組・課題）	目標達成に向けた今後の方向性
新幹線等通勤・通学支援事業 新幹線等通勤通学補助者数（人）	19	18	18	18	18	90人 （累計）	91	101%	令和2年度は2人通勤、17人通学で利用しているが新幹線での通勤通学はなし。保護者への聞き取りで、新幹線と在来線の定期代（自己負担）の差額の大きさが新幹線定期の活用控えにつながっていると判明。新幹線通学のメリットを示せるかがカギとなる。	今後も毎戸配布及び中学卒業生徒の保護者への説明会を実施し、制度周知を徹底する。また、青森北工今別校舎の閉校に合わせた制度拡充も検討していく。
住環境整備事業 空き家バンク登録件数（件）	4	5	3	3	3	5件 （累計）	18	360%	毎戸配布等での制度周知によって登録件数が伸びたものと思われる。	更なる活用促進のため登録につながる補助金創設や土地のみの登録も可能にする等制度を拡充していく。KPIに拘らず更なる利活用を促進していく。
住環境整備事業 町営住宅の整備件数（戸）	4	4	4	3	0	15戸 （累計）	15	100%	R1年度に1棟2戸、R2年度に2棟4戸を建設。令和2年度から令和5年度までの整備計画にて計15戸整備予定のためKPIの達成が見込まれる。	町営住宅への入居需要を勘案しつつ、外周道路及び外構計画も含めて整備を進める。
お試し住居体験住宅整備事業 整備件数（件）	1	0	0	1	0	2件 （延べ）	2	100%	令和2年度に旧大川平小学校教頭住宅を整備した。潜在的な利用可能物件の確保が課題となる。	活用可能物件を検討していき種類の違うお試し住宅の整備を目指す。
お試し住居体験事業 体験件数（件）	0	2	2	3	3	10件 （累計）	10	100%	コロナ禍により令和2年度内受入を停止した。今後、お試し住宅の利用を含めた移住体験ツアー等の利用促進策の企画周知がカギとなる。	コロナ収束後に即利用できるように環境整備・周知を徹底していく。また、移住体験ツアー等を検討し通年利用を目指す。
一次産業環境整備推進事業 ほ場整備面積数（ha）	0	26	26	0	0	50ha （累計）	52	104%	令和2年度は測量・設計の計画で実際の工事着工は令和3年度から開始する。R3~R4の大川平地区の整備のみでKPIは達成見込み。	令和3年度に工事着手予定。令和8年度以降に今別地区の圃場整備を実施予定

住みたいまちオンリーワンプロジェクトの実績等に対する今別町まち・ひと・しごと創生推進会議委員の意見

- ・新幹線定期を活用するために定期代補助の補助率を上げてほしい。
- ・大手企業等ではワーケーションというスタイルが増えているようだ。そういった人たちに定住してもらうためには環境整備が必要。町に新幹線駅があるのは強力な武器だと思う。
- ・大手IT企業は入社指示があれば午前11時までに会社できる範囲へ居住地を移して仕事ができるようになった。ここ今別町は、大きな災害や事件もないウェルビーイングな町であることを大手企業へアピールし、空き家の利用促進と移住促進のコラボレーションを図ってほしい。
- ・移住体験ツアーの中に、町内の一次産業を体験できるような内容を入れてほしい。今後は空き家の増加が見込まれるので、登録や実際に住む人の立場になった補助事業を積極的に創設してほしい。

第2期総合戦略KPI達成率進捗状況確認票

3. みんなで創る健康生き生きタウンプロジェクト（自然減対策）

【基本目標】

区分	R2	R3	R4	R5	R6	5年間数値目標・実績		達成率	内部検証	
	実績	目標値	目標値	目標値	目標値	数値目標	実績見込		R2年度までの実績について分析（取組・課題）	目標達成に向けた今後の方向性
住民検診受診率（%）	41	42	43	44	45	40%→45%	45	100%	特定健診及び各種がん検診の無料化、個別健診の実施、受診勧奨により、受診率が向上した。	健診無料化及び個別健診の継続。 未受診者の個性（年齢、性別、既往歴等）に合わせた個別通知による受診勧奨及び職域や各種団体と連携した受診勧奨を実施する。

【具体的な施策・事業と重要業績評価指標】

区分	R2	R3	R4	R5	R6	5年間数値目標・実績		達成率	内部検証	
	実績	目標値	目標値	目標値	目標値	数値目標	実績見込		R2年度までの実績について分析（取組・課題）	目標達成に向けた今後の方向性
出逢い交流事業 イベント開催回数（回）	0	1	1	1	2	5回 （累計）	5	100%	他市町村と連携した広域イベントの実施を検討したが、コロナ禍によりイベントを実施できなかった。	当町のみでの単独開催では十分な効果を得づらいと判断し、今後も近隣町村と連携し多地域連携でのイベント実施を目指す。
多世代交流イベント事業 イベント開催回数（回）	4	3	3	3	3	3回/年	3.2	107%	コロナ禍を考慮し小規模イベントを実施した。町内でのイベントの種を効率的に発掘し、参加者希望者の層の厚さを増やせるかがカギとなる。	好評だったイベントは継続実施していき、新たなイベントの種を発掘していく。
通いの場創出事業 通いの場設置築数（地区）	3	3	4	5	6	3地区→6地区	6	100%	コロナ禍により各地区での活動が実施できず、新規の通いの場創設の勧奨も進まなかった。コロナ禍での住民活動に対する支援が課題となる。	高齢者が安心して集まれる状況になったら、地区及び老人クラブ等に通いの場の設置を働きかける。
住民健康受診促進事業 住民検診受診率（%）	41	42	43	44	45	40%→45%	45	100%	特定健診及び各種がん検診の無料化、個別健診の実施、受診勧奨により受診率は増加傾向にあるが、現役年代の受診率が低迷しているため、目標値である45%には至っていない。現役世代への受診勧奨がカギとなる。	健診無料化及び個別健診の継続。 未受診者の個性（年齢、性別、既往歴等）に合わせた個別通知による受診勧奨及び職域や各種団体と連携した受診勧奨を実施する。
あんしん在宅医療（訪問診療）事業 訪問診療者数（人）	23	25	30	35	40	13人→40人 （延べ）	40	100%	訪問診療の周知等により、利用者は増加傾向にある。	包括支援センター及び保健師等と連携し潜在的ニーズを発掘していく。

みんなで創る健康生き生きタウンプロジェクトの実績等に対する今別町まち・ひと・しごと創生推進会議委員の意見

- ・ 出逢い交流事業はコロナ禍により実施できていないが、今別町のこれからの若者のためには一番必要な事業と考えられるので、感染状況を勘案しつつ、是非とも実施してほしい。
- ・ まだまだ新型コロナウイルスの終息が見えない中、いろいろなイベントが実施できていない。検診等の無料化も良いが、新型コロナウイルス感染症に関する検査（PCR等）も無料化し、町民全体の健康と命を守るためのプロジェクトを希望する。
- ・ 基本目標を達成するうえで、その達成度合いを計測・監視するための定量的な指標がKPIである。基本目標とKPIが同項目なのはおかしいため違うKPIを設定しては。
- ・ 高齢者と子供たちに向けた、地元食材を使った食育イベントがあっても良いと思う。